

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください

1. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】 (<https://sunritz-hattori-museum.or.jp/pages/265/>)

7月19日(日)～9月27日(日)

特別企画展「茶道具をめぐる物語」

この度、サンリツ服部美術館では、茶道具の由緒や伝来に注目した展覧会を開催いたします。茶の湯において、由緒は道具を入手した経緯、伝来は寺社や大名家などで代々受け継がれてきたこと、あるいは持ち主の変遷を意味します。茶会記や名物記、道具の箱の書付や添え状などに記された由緒や伝来からは、さまざまな人の手を経て今日まで大切に伝えられてきたことだけでなく、並々ならぬ情熱をもって道具を蒐集し、茶の湯を楽しむ人々の姿までもが目に浮かんできます。本展では、本阿弥光悦が嫁ぐ娘のために振袖の裂に包んで持たせたという国宝「白楽茶碗 銘 不二山」をはじめ、持ち主が変わるたびに銘を変えられた「瀬戸新兵衛茶入 銘 弁舌」や、明治～大正期の元勲・井上馨が入手した喜びから、さらに七重目の箱を誂えた「黒楽茶碗 銘 雁取」など、茶道具の優品を公開いたします。それぞれの茶道具が歩んできた歴史をたどりながら、作品の鑑賞をお楽しみいただける機会となりましたら幸いです。



2. 戸栗美術館【東京・渋谷】 (<https://www.toguri-museum.or.jp/>)

7月3日(金)～9月21日(月・祝)

企画展「酒がおいしい古伊万里展」

【はこぶ・そそぐ・かたむける 酒あるところにうつわあり】厳かな神事から日常の憩いまで、酒は様々な場面で人々の生活に寄り添ってきました。江戸時代に実用品として流通した伊万里焼のなかにも、運搬、注酒、飲酒など酒にまつわるあらゆるシーンに登場するうつわがあったでしょう。今展では、江戸時代の酒文化に触れつつ、酒をおいしく楽しめそううつわ約80点を絵画や文献資料も参照しながらご紹介いたします。

※絵画・文献史料の出展はございません。パネルにて掲示いたします。



3. 根津美術館【東京・港】 (<https://www.nezu-muse.or.jp/jp/exhibitions/upcoming/>)

8月15日(土)～9月21日(月・祝)

企画展「やきもの名品紀行」

やきもの、すなわち陶磁器は、土を練り、形を作り、焼き固めて生み出されるものです。古来、食器や調理具、貯蔵具、装飾品などとして、私たちの生活と深く関わってきました。やがてそれらの中に、実用を超えた豊かな美が見出されるようになり、さらには、鑑賞を目的とするものも誕生しました。本展覧会では、2,300件におよぶ館蔵のやきものの中から名品を選び、展示室1では中国、続く展示室2では日本、そして展示室5では朝鮮半島のやきものをご紹介します。三つの展示室を巡る道のは、海を越え、時を越えた、やきもの探訪の旅ともなります。そして、それが各地の風土が育んだ文化の一端に触れる体験となれば幸いです。

